

* 帝国陸軍の戦闘機が引っかけた 60m 鉄塔検証

—その3、一等三角点上空から写真—

アーカイブ室新聞 164、171号、172号に東京天文台にあった報時信号受信用の60m鉄塔があったことの痕跡を追及し、その位置を検証する記事を書いた。この作業はまるで探偵のような作業で非常におもしろかった。そしてこの作業の付随検証として、国立天文台構内の一等三角点上空から撮影したと思われる写真1を発見した。

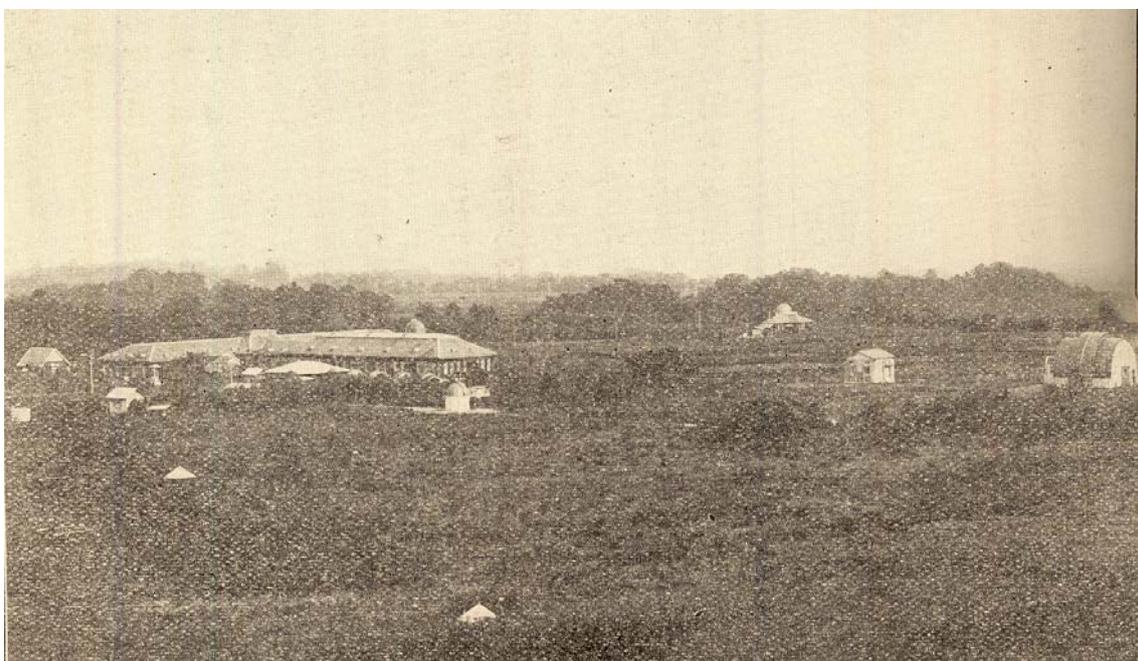


写真1 東京天文台本館の北西の低い上空から撮影されたと思われる写真

写真1に写っている菱形基線の西側基準点のピラミッド屋根と卯酉儀ドームを結ぶ線①と太陽写真儀室とブラッシャー写真儀ドームを結ぶ線②を入れたものが写真2である。この2本の線は、どこかで交わりそうである。

この2本の線を、昭和8年(1933年)の東京天文台の建物配置図の上に書いたものが図1である。見事に東京天文台構内の一等三角点で交わるではないか。この一等三角点設置の際、あるいは、三角点を使った測量の際、その地点に「やぐら」が組まれたことは容易に想像される。

実は、この写真1も、4本あったといわれる東京天文台構内の60m鉄塔のどれかに登って撮影したのだろうと考え、どれかの鉄塔に行き着くだろうとはじめた探偵作業であった。しかし、予想に反して、その視準線の延長は60m鉄塔には向かわず、一等三角点に向いたのであった。60m鉄塔の検証作業で付随して知れたことであった。

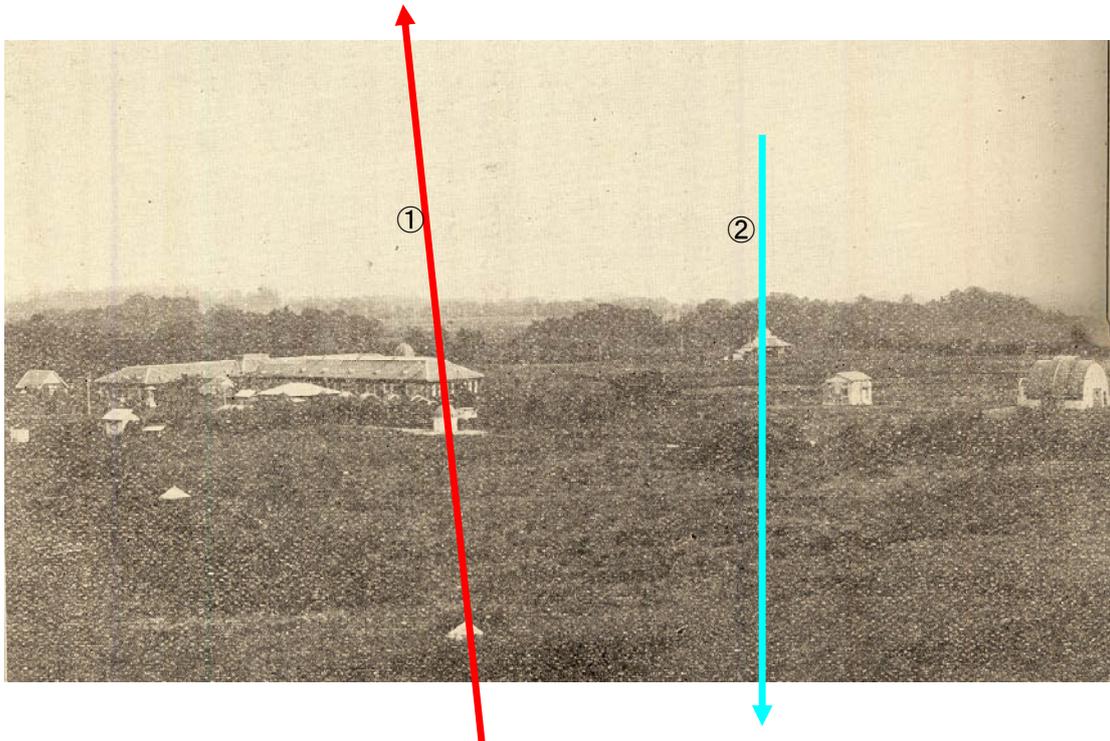


写真2 二つの方向を示す写真

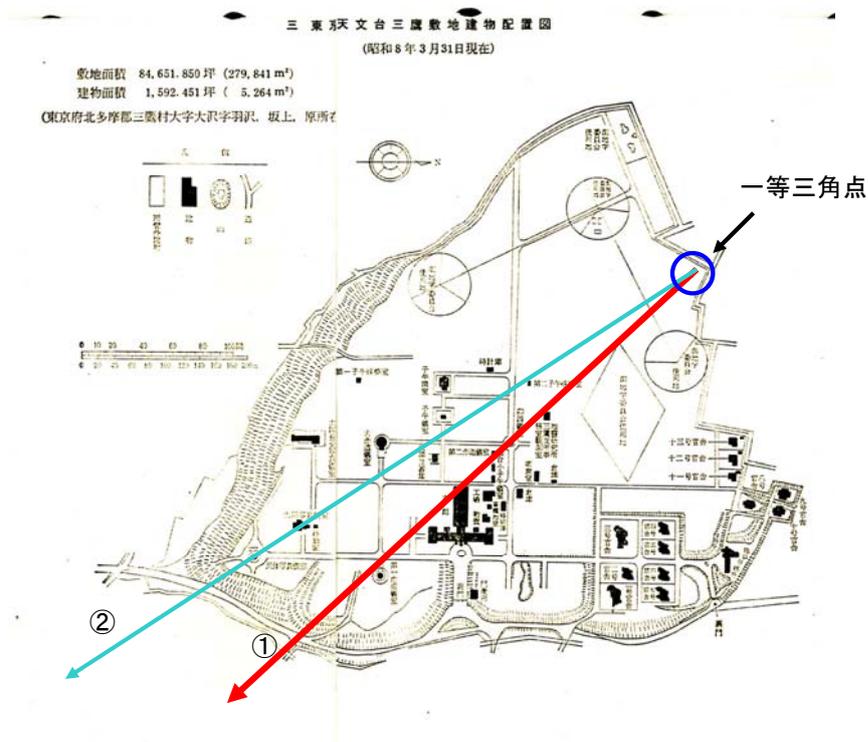


図1 写真1が一等三角点の低い上空から撮影したと思われる図